

経済・金融 フラッシュ

米個人所得・消費支出(22年3月) 個人消費(前月比)は名目ベースで前月比 +1.1%、実質ベースでも+0.2%と堅調な結果

経済研究部 主任研究員 窪谷 浩

TEL:03-3512-1824 E-mail: kubotani@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 個人所得、個人消費ともに市場予想を上回る

4月29日、米商務省の経済分析局(BEA)は3月の個人所得・消費支出統計を公表した。個人所得(名目値)は前月比+0.5%(前月改定値:+0.7%)と+0.5%から上方修正された前月を下回った一方、市場予想(Bloomberg集計の中央値、以下同様)の+0.4%は上回った(図表1)。個人消費支出は前月比+1.1%(前月改定値:+0.6%)と+0.2%から上方修正された前月、市場予想の+0.6%を大幅に上回った。また、価格変動の影響を除いた実質個人消費支出(前月比)は+0.2%(前月改定値:+0.1%)とこちらも▲0.4%から上方修正された前月、市場予想の▲0.1%を上回った(図表5)。貯蓄率¹⁾は6.2%(前月:6.8%)と、前月から▲0.6%ポイント低下した。

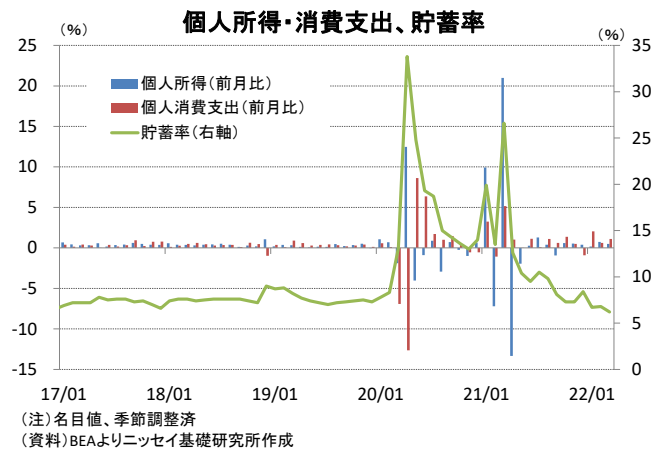
価格指数は、総合指数が前月比+0.9%(前月改定値:+0.5%)と+0.6%から小幅下方修正された前月を上回った一方、市場予想(+0.9%)に一致した。変動の大きい食料品・エネルギーを除いたコア指数は前月比+0.3%(前月改定値:+0.3%)と+0.4%から下方修正された前月、市場予想(+0.3%)に一致した(図表6)。前年同月比は総合指数が+6.6%(前月改定値:+6.3%)と+6.4%から下方修正された前月を上回り、82年1月以来の水準に上昇した一方、市場予想

(+6.7%)は下回った。コア指数は+5.2%(前月改定値:+5.3%)と+5.4%から下方修正された前月、市場予想(+5.3%)を下回った(図表7)。

2. 結果の評価: 堅調な消費を確認する結果

3月の個人消費(前月比)は名目ベースで+1.1%と22年1月の+2.1%、2月の+0.6%に続き3ヵ月連続で堅調な伸びとなったほか、大幅な物価上昇を加味した実質ベースでも+0.2%のプラスとなり、足元で消費が堅調であることを確認する結果となった(図表1、図表5)。労働需給の逼迫を背景に賃金・給与の堅調な伸びが持続しており、個人消費は当面堅調な所得などに支えられて堅調な伸びを

(図表1)



¹⁾ 可処分所得に対する貯蓄(可処分所得-個人支出)の比率。

維持しよう。

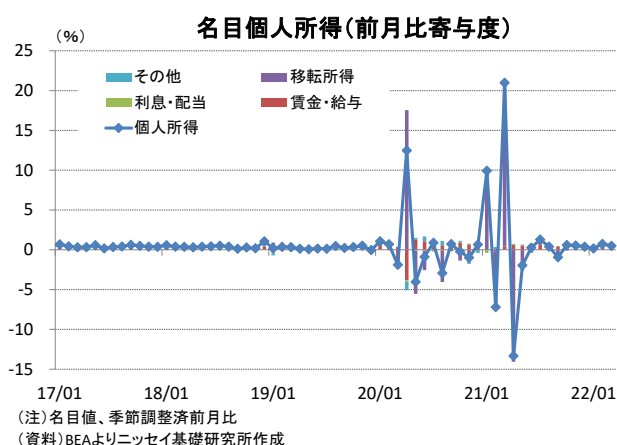
一方、FRBが物価指標としているPCE価格指数（前年同月比）は、エネルギーや食料品価格の上昇に伴い、総合指数の上昇基調に歯止めがかかっていない。もっとも、物価の基調を示すコア指数は20年10月以来となる前月からの伸び鈍化となっており、今後も低下が持続するのかが注目される。

3. 所得動向:賃金・給与、自営業者所得の堅調な伸びが持続

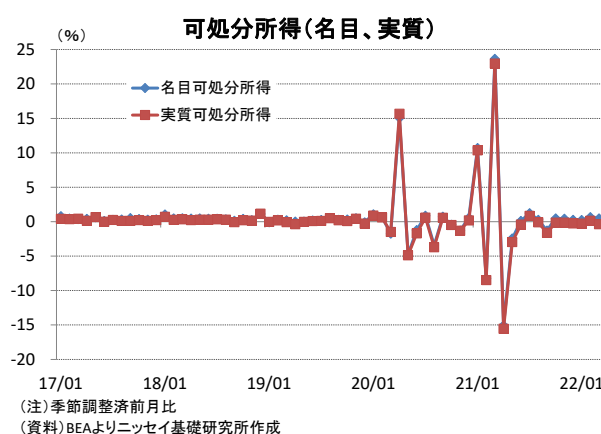
3月の個人所得（前月比）は、労働需給の逼迫を背景に賃金・給与が+0.6%（前月：+1.1%）と前月から鈍化したものの、堅調な伸びを維持した（図表2）。自営業者所得も+0.8%（前月：+1.5%）と前月から鈍化したものの、こちらも堅調な伸びを維持した。一方、利息配当収入は+0.4%（前月：+0.3%）と小幅ながら伸びが加速した。

個人所得から税負担などを除いた可処分所得（前月比）は、3月の名目が+0.5%（前月：+0.7%）と前月から伸びが鈍化した（図表3）。また、価格変動の影響を除いた実質ベースでは▲0.4%（前月：+0.2%）とこちらはマイナスに転じた（図表3）。

(図表 2)



(図表 3)



4. 消費動向:財、サービスともに前月から伸びが加速

3月の名目個人消費（前月比）は、財消費が+1.2%（前月：+0.3%）、サービス消費が+1.1%（前月：+0.8%）といずれも前月から伸びが加速した（図表4）。

財消費は、耐久財が▲1.0%（前月：▲1.2%）と2ヵ月連続のマイナスとなった一方、非耐久財が+2.5%（前月：+1.1%）と前月から伸びが加速して全体を押し上げた。

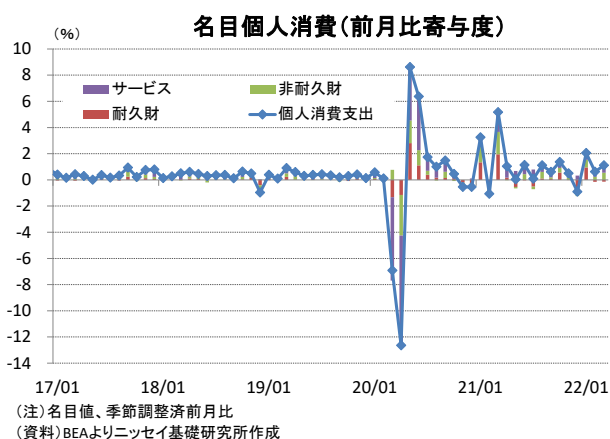
耐久財では、自動車・自動車部品が▲3.1%（前月：▲4.6%）とマイナス幅は縮小したものの、2ヵ月連続でマイナスとなったほか、娯楽財・スポーツカーが▲0.4%（前月：+0.3%）とマイナスに転じた。さらに、家具・家電が+0.2%（前月：+0.5%）と伸びが鈍化した。

非耐久財では、ガソリン・エネルギーが+16.1%（前月：+9.8%）と前月から伸びが大幅に加速した。もっとも、ガソリン・エネルギー価格の上昇を加味した実質ベースでは前月比▲1.6%とマイナスになっており、消費増加はこれらの価格上昇によるとみられる。一方、食料・飲料が+0.9%（前月：▲0.2%）と前月からプラスに転じたほか、衣料・靴が+0.4%（前月：+0.2%）と小幅に伸びが

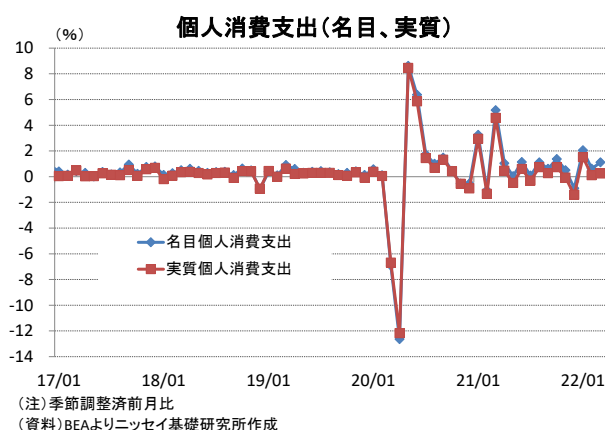
加速した。

サービス消費は、娯楽が+1.8%（前月：+2.6%）、外食・宿泊が+1.9%（前月：+3.4%）と前月から伸びが大幅に鈍化したほか、医療サービスも+0.5%（前月：+0.6%）と小幅に鈍化した。一方、輸送サービスが+3.6%（前月：+3.6%）と前月並みの高い伸びを維持したほか、住宅・公共料金が+0.6%（前月▲0.2%）、金融サービスが+0.5%（前月：▲0.0%）と前月からプラスに転じて全体を押し上げた。

(図表 4)



(図表 5)

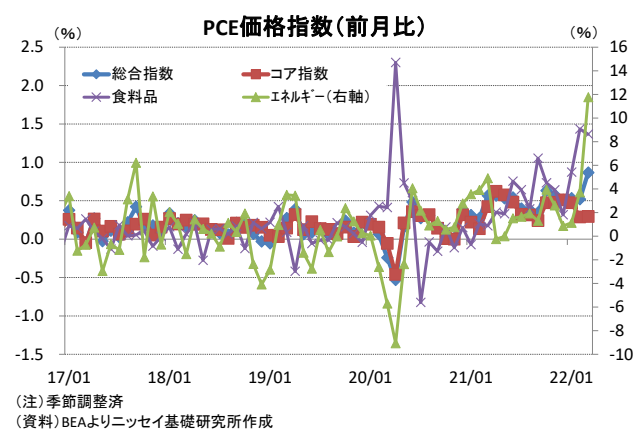


5. 価格指数: エネルギー価格は前月比、前年同月比ともに 05 年 9 月 以来の伸び

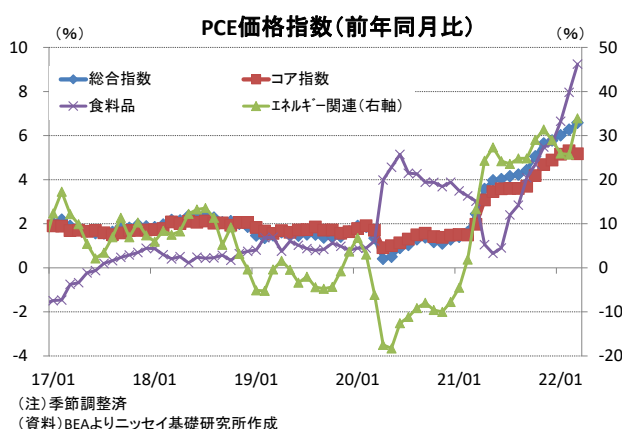
価格指数（前月比）の内訳をみると、エネルギー価格指数が+11.8%（前月：+3.7%）と 10 ヶ月連続のプラスとなったほか、05 年 9 月（+13.6%）以来の伸びとなった（図表 6）。食料品価格指数は+1.4%（前月：+1.4%）と、こちらも 14 ヶ月連続のプラスとなった。

前年同月比は、エネルギー価格指数が+33.9%（前月：+25.7%）と 13 ヶ月連続で 2 桁の上昇となったほか、こちらも 05 年 9 月（+36.8%）以来の伸びとなった（図表 7）。また、食料品価格指数は+9.3%（前月：+8.0%）と 57 ヶ月連続のプラスとなったほか、81 年 4 月（+9.7%）以来の高い伸びとなった。

(図表 6)



(図表 7)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません